

平成27年5月12日(水) 18:00~20:00

津山市役所東庁舎3階E302会議室

担当：津山市教育委員会学校教育課指導係 指導主事

第2回つやまげんぼ塾 資料

『授業づくりを考える  
教科書を上手に活用するポイント！』

授業づくりは算数から(授業イメージをつくる)

×シンプル イズ ベスト!

言葉や道具を使って、「教える」

自分の言葉や道具で、「まねする」

みんなの言葉や道具で「わかちあう」

教師や友だち、自分で「評価する」

「何を」「どこまで」「どうあればよいか」  
わかるとは具体的なイメージができること!

# ここを意識して、授業してみよう！

子どものモデルは教師！

<行動>

いきいき笑顔、きびきび動作

<口調>

明るいトーン、張りのある声

<言葉>

あたたかく、はきはきとしゃべり  
優しい眼差しで

子どもを育てる意識！

<認める・誉める>

短く、大量に、テンポよく！

すごい、いいね、なるほど、さすが、その通り  
やるな、やっぱり、来たね、よっしゃあ他

<要求する>

奮起の言葉もタイミング！

それだけ、10個は無理か、去年はもっと・・・、  
先生が期待しすぎた・・・他

動きをつけてメリハリを！

<立つー座るー移動>は素早く！！

場面を捉えて、子どもを動かす！

「静かにしなさい」と言わずに、静かにさせる。

例 「全員起立。一緒に読みます。」 「呼ばれたら返事、ぱっと立つ。」

「この列起立。前の人から発表します。」

## 教師の意識で、授業中の雰囲気はガラッとかわる！

## 【授業改善の視点（提案 ~ ）】

つかみはOK?

### □ 提案① 授業の導入について

#### □ フラッシュ教材

（歴史人物、漢字、公式、九九、ことわざ等）

#### □ 5分間ミニテスト

（復習：基礎基本を中心に行う）

#### □ 復習プリント

（5分程度で：答えあわせはテンポよく）

提案 子どもと子ども同士がペアや前後で、関わり合う場面や活動を1時間の中で、5～10分間設定する。

提案 ノートにまとめる時間や、黒板を写す時間を確保する。

# 学級集団の空気（学習の基盤）

引用資料：筑波大学附属小学校 二瓶弘之教諭「どんな言葉の力を子ども達に獲得させたいか」より

## 「もっと！もっと！」の意欲づけ

もっと言いたい、もっと聞きたい、もっと読みたい、もっと書きたい。

## 「あたたかさ」の土壌

間違っても誰も笑わない、仲間が間違っても私は笑わない。

## 「自分らしさ」の誇り

私は私らしく、仲間はその人らしく、みんな違ってみんないい。

## 「前に出よ！」の姿勢

出る杭は打たれることによって鍛えられる。だまって下を向くな。

**空気は教師の意識でかわる！チェック7（セブン）！**

笑顔・ユーモア

返事

声をそろえる

立つ座る（切替）

反応する

移動のスピード

動と静（メリハリ・リズム・テンポ）

# 教科書を使って「考える」とは・・・

## 「事実」と「考え（自分・他人）」区別する。

理由や根拠を問うこと。資料や聞き取り等をもとに、自分の考えなのか、それとも事実や資料なのかを問うということ。

## 「考え」を比較、分類、関連づけする。

今の考えに賛成か反対か？ B案とC案のどちらか？ など自分の立場を明らかにさせる。発言が難しければ、×や挙手による意思表示も考えられる。クラス全員の子に問い返し、意見を持たせることが必要。

## 個々のイメージ

## 関連付け

## 意味づけ

子ども一人一人の意見から次の段階へと”考える視点”を積極的に与える必要がある話し合い活動では、同じような意見でもその根拠を整理すると、他者との僅かな解釈の違いが出てくる。同じ言葉や事象、数値に目を向けることで、微妙な根拠の違いや解釈の違いに気づく。考えることの手立てや視点を明確にして、言語化させることが重要。

どこで、どのように、「考える」場を仕組むかが重要！

考える方法：ペアで、小グループで、全体で、ロールプレイで、寸劇で 等